



企画展

2016.7.16～8.28

秋田の昆虫

展示担当が解説します

7月16日（土）・7月31日（日）・

8月13日（土）

どの日も午後1時30分～午後2時20分



このイベントは宝くじの収益金の一部で
実施されています。
秋田県

秋田県立博物館

Tel.018-873-4121 Fax.018-873-4123

E-mail: info@akihaku.jp ホームページは [秋田県立博物館](#) で検索

秋田の昆虫には発見がいっぱい! つぎに新発見するのはあなたかも!?

秋田の昆虫せいぞろいの実物図鑑

秋田県にはいったい何種の昆虫がいるのでしょうか?これまでにわかっているのはだいたい5,000種くらい。詳しく調べられている県では1万種くらいのところもありますから、秋田県はまだまだです。逆に新発見の楽しみがたくさん残っているともいえます。ただし、これから記録されそうな昆虫は、小さなものや、図鑑では調べられないものが大部分です。博物館には、残念ながら秋田の昆虫全種の標本があるわけではありませんが、大きくて有名な昆虫から、小さくて図鑑にも載っていない昆虫まで、できるだけいろいろ展示します。



ミヤマクワガタ
ダウリアノミゾウムシ
(図鑑には載っていない)

温暖化で北上!?



2015年に秋田県で初記録、越冬も確認されたウラギンシジミ。1980年代には新潟県が北限だった。

1990年ころまでは秋田県が北限だったチョウが今では青森県にもすみ着いていたり、新潟県あたりまでしかいなかったチョウが秋田県で冬越しできるようになったりしています。気候の温暖化で昆虫の分布にも変化が起きているようです。

絶滅するかも

かつては珍しくなかったのに、いつの間にかめったに見られなくなってしまった昆虫がたくさんいます。水辺や海岸、草原など、人間の手が加わることの多い場所ほど、影響が大きくなっています。



現在秋田県内で生息が確認されているのは1カ所だけになってしまったクロシジミ。1960年代初めまでは秋田市にもいた。

新種発見!

大きな昆虫では日本国内で新種が発見されることは珍しくなりましたが、小さな昆虫や地味な昆虫では、毎年のように新種が発見されます。秋田県内で採集された標本をもとに命名された昆虫がいくつもあります。これからもまだまだ出てくるでしょう。



2015年に新種として命名された、チョウカイトガリヤマゾウムシ

海の向こうから



1990年代終わりころから秋田県内に広がったブタクサハムシ

外国からいつの間にか持ち込まれてしまった昆虫が、国内で広がってしまうことがあります。秋田でも外来昆虫が外来植物を食べているというおかしなことが起きています。

南の国から



2013年に秋田市で見つかったシンジュキノカワガ。国内では越冬できない。

数百キロ、時には千キロ以上も離れた暖かい地方から、風に乗ってやってくる昆虫がいます。毎年のように見られる種もあれば、めったに発見されない種もあります。見つけられるかは運次第。観察する人が多くなれば、発見はもっと増えるでしょう。